

■ 議題

今回の番組審議委員会は、8月5日（月）遠藤尚美ナビゲーター担当番組『ヒッツ・デイリー・エクスプレス』内で午後12時13分より放送した新コーナー「お悩み解決！よろず相談室^{※1}」と、8月22日（木）林みづきナビゲーター担当番組『ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス』内で午後2時35分より放送した新コーナー「お悩みサヨナラ ヒラメキ知恵袋^{※2}」を聴いて審議に入った。

※1「お悩み解決！よろず相談室」

コーナー内容： 中小企業庁岐阜県よろず支援拠点チーフコーディネーターの松岡隆（まつおか・たかし）氏を迎え、中小企業・小規模事業者等の売上拡大、販路拡大、経営改善など、経営上のあらゆるお悩みの相談について伺うコーナー。毎週月曜日放送。

※2「お悩みサヨナラ ヒラメキ知恵袋」

コーナー内容： 生活に関連する裏ワザや雑学などを紹介するコーナー。知恵袋を開くシーンは、手持ちの鈴を鳴らして表現している。毎週木曜日放送。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

西尾委員： 遠藤ナビゲーターの「よろず相談室」は、話が非常に論理的で分かりやすかった。且つ、組織の定義をクイズ形式にしたり、組織マネジメントの話を、芸能の時事問題に絡めて語るなど興味深く聴けた。しかし一方で非常にレベルの高い内容だったので、リスナーを選ぶコーナーだと思った。

林ナビゲーターのコーナーは、今年4月に聴取した「難読 漢字博士への道」（漢字クイズ）でシンキングタイム中の「リコーダー演奏」が非常に印象に残っている。今回の「ヒラメキ知恵袋」内で鳴らされる鈴も、林ナビゲーターならではの感じで、非常に良い味を出していると思った。ただ、話し方については、恐らく今後上達していくとは思いますが、もう少し抑揚があると聴きやすいと思った。

大萱委員長： 林ナビゲーターは、本当に色々なアイデアを出してきて面白いと思う。

安藤委員： 「よろず相談室」は、組織マネジメントという難しいテーマで、どのような話になるのかと思い聴き入っていたが、非常に分かりやすく、耳にすっと入ってくる内容で、私自身も学ばせてもらった。非常に難しいテーマだが、例えば、夫婦の日常を入れたり、或いは、バーベキューなど生活の一場面を取り上げたりして、色々な世代の方に分かりやすく噛み砕いて提示しているところが、非常に良かった。毎週月曜日の放送ということで、また時間があれば聴きたいと思った。

「ヒラメキ知恵袋」も、毎日の生活の中に出てくる時事問題や、夏バテ、また暑い時期の野菜の下処理についてなどを取り上げていて、こちらも学ばせてもらいながら、非常に興味深く聴いた。コーナーの途中で鈴が「チリチリン」と鳴る一工夫も、楽しく聴かせてもらった。とても楽しい内容だった。

大萱委員長： 「よろず相談室」に出演の松岡さんは、たまに関西弁が入るが、逆にそれが新鮮に聴こえ、また、内容もすごく面白いと私も思った。

大平委員： 「よろず相談室」について、遠藤ナビゲーターはいつも通り口調もはっきりしていて、予想通り、予定通りに対応していたと思う。松岡さんも、ハリのある大きな声で、笑い声も入っていて、全体的に良かった。少し気になった点は、他の委員の意見にもあったが、分かる人には分かる内容だと思った。また、話題最初の説明が「はっきり言えない」という話だったが、ちょっと「モヤッ」とした表現が続き、リスナー側がイメージし難い導入だった印象を受けた。ラジオはどうしても聴く側の人イメージを膨らませなくてはならないので、聴く人が、映像を目に浮かべることのできる説明が大切だと思う。内容としては、松岡さんの話が長く、遠藤ナビゲーターが相槌を打つ構成だったので、もう少しやり取りをするなどの流れがあっても良いと感じた。

「ヒラメキ知恵袋」以外にも林ナビゲーターの放送を何回か聴いたことがあるが、一遍で雰囲気を変えてしまう独特のトーンで、私自身は彼女のキャラとして受け止めている。どんどん成長して欲しいと思う反面、現在の雰囲気を残して欲しい気持ちもある。

2つのコーナーとも、一生懸命考え、しっかり構成されていたと思う。聴く側がイメージをしっかり持てる放送をすることは、今も、取り組んでもらっているが、今後も課題だと思う。

大萱委員長：最初の説明に関しては私も同じことを感じた。はっきり言わなかったことが、良い悪いということでは無く、この時は敢えてジャニーズ事務所と吉本興業の名前を出さなかったのか？

会社側： そうだ。

大萱委員長： 名前を出すことは好ましくないのか？

会社側： 問題は無いと思うが、世間でそうとう話題になって、皆に承知されているので、今回は敢えて東京と関西の大手芸能事務所という言い方をした。話の中ではアイドルグループ「嵐」など固有名詞も出している。

大萱委員長： 大概の人は分かると思うが、もしかしたら、年配でジャニーズが分からない人がいるかもしれない。色々な思いがあって構成していると思うが、そういったことも考えながら番組を作って欲しい。

松川委員： 「よろず相談室」については私も全く同じ意見で、初めにいきなり「じゃ、2件の問題について」という切り口で入った時に、吉本興業は直ぐに頭に浮かんだが、正直、ジャニーズ事務所の事は「そういえばあったな」という程度だった。有名な出来事だったとは思いますが、年配の方などは多分、思い出すことができず、認識も無い感じだったので、固有名詞は出さなくとも、このような事例があったということを目頭に言ったほうが良かったと思う。また「電車に乗る・降りる」など色々な問いかけがあり、分かりやすい問答で良かったが、少し長いと感じた。また、平日午後の放送時間だと、管理職のような人はあまり聴けないと思うので、この時間帯、どういった人達が対象になるのかを考えると、率直な印象として、もう少し簡単な内容の方が、ずっと入り込めたのかなと思う。「ヒラメキ知恵袋」のクエン酸の話は「クエン酸って何に入るとるのだろう？」と思いながら聴いていたら、レモンや梅干しに入っていると言っていて「あっ、そうやったのか！」と思ったが、ただ「クエン酸をどうぞ」と言われても、どのように使えば良いのか分からなかった。多分、主婦も聴いていると思うので、レモンや梅干しを使った料理に繋がる話があると、試してみようかなという気になるので、例などを入れると良かったと思う。

大萱委員長： 確かに具体的な説明があると、リスナーはより分かりやすいと思う。ジャニーズについても、事件性は無かったので、固有名詞を出した説明があっても良かったと思う。

山田委員： 「よろず相談室」の最初の時事ネタは楽しく聴かせてもらった。固有名詞をぼやかしたところも、分かる人は「ニヤッ」としただろうし、分からない人もいたかもしれないが、それはそれで演出としては良かったと思う。リスナーを選ぶネタかもしれないが、私はすごく楽しんで聴けた。「ヒラメキ知恵袋」のクエン酸の話は、夏場のネタとしては良かったと思うが「どんな食品に含まれていて、どのように料理に使えるのか」など、もう少し突っ込んだ話をして良かったと思う。

大萱委員長： やはり年代によっても意見が色々だと思う。

田中委員： 「よろず相談室」のコーナー説明が「経営上のあらゆるお悩みの相談について」となっていたので、ちょっと難しいコーナーなのかなと思ったが、時事ネタを扱っていて聴きやすかった。毎回、時事ネタを扱っているわけでは無いと思うが、今後も聴きやすいテーマでやって欲しい。松岡さんは、話好きな印象で、また、関西弁がヒッツFMで流れているのが新鮮で良かった。コーナー前半は、組織についても具体的な事例を交えながらクイズ形式になっていて、すごく分かりやすかった。反面、コーナーの後半は、松岡さんの一方的な話が続き、遠藤ナビゲーターが相槌を入れる程度になっていたような気がして、聴き飽きてしまう印象を持った。

「ヒラメキ知恵袋」のような裏技や雑学を紹介するコーナーは、非常に皆が知りたいことだと思うので、取り上げていくことは良いと思う。途中で鈴を鳴らすことについても、演出するという意味ではすごく良いと思うし、どんどん取り入れてもらいたいと思うが、少しイメージと違う気がした。鈴では無く、例えば誰もが知っているようなアニメの効果音などを使っても面白いと思った。また、1つのコーナーの中で「前編」・「後編」と分けて言う必要は特に無いと思った。

大萱委員長： 今回は時事ネタだったが、他の回も大体こういった感じで何かを元に、わかりやすく説明しているのか？それとも、もっと専門的なのか？

会社側： 普段もそこまで専門的ではない。9月の放送分を先日収録したが、今、話題になっている「タピオカ」を取り上げ、なぜブームになっているのかななどをわかりやすく話していた。

大萱委員長： また、先程、意見にもあったが、放送時間によっては聴くことが難しい人もいる。このコーナーの再放送はしていないのか？

会社側： 間の再放送はしていない。夜間の時間帯を検討中だが、秋以降、可能であれば昼の時間帯で再放送したいと考えている。

原委員： 「よろず相談室」の松岡さんの話は、噛み砕いた話で非常に面白かった。ただ、先程も意見にあったとおり、この時間帯（昼間）の放送だと、内容をじっくり聴くには、良いという人と、この時間帯では聴けないという人、両極端だと思う。それについて、どちらが良いのかは分からないが…。それから、もう少し話の中で、具体的な例を入れると分かりやすかったと思う。また、先程も意見にあったが、遠藤ナビゲーターとのやり取りがもう少しあると、もっと内容のボリュームアップができたのではないかと思った。全体的には、非常にタメになる話で良かった。

「ヒラメキ知恵袋」について、鈴の音は気になったが、林ナビゲーターは他のコーナーでもリコーダーを吹いたりして、毎回、ユニークなやり方をしている印象だ。（鈴の音やリコーダーも）何回も聴いて慣れてくると、意外と良いのかなと思えてくる。林ナビゲーターは、独自のユニークな発想で、人と違ったところを突いてくるので、そういったところでは、これからも面白くなっていくのかなと感じる。また、林ナビゲーターの話し方についても、唐突の感は免れないが、私は慣れてきたし、以前に比べると、ある程度、流れるようになってきたと思う。話し方の良し悪しはあると思うが、今のところはこのような林ナビゲーター独自のやり方でも逆に面白いのかなと思う。他局の色々な番組を耳にした時に、林ナビゲーターのような喋り方の人はほとんどいないので、覚えられやすいという利点になると思う。

大萱委員長： 林ナビゲーターのワールドが出来上がっているのです、それを是非、上手に出して行って欲しい。鈴の音は、私は聴取前に説明を聞いたので「カシャカシャ」と鳴った時、これが鈴かと思って聴いたが、その情報を知らないで放送を聴くと、この音は何だろうと思うかもしれない。もっと鈴らしい音でも良いと思った。
その他に普段気になっている点などあれば聞かせて欲しい。

原委員： 8月11日から13日に行われた「陣屋前夜市のステージショー」の生中継をたまたまラジオで聴いていた時に、だいぶ音声途切れた。途中、無音の時間が結構あって、ほんの少し途切れたのなら良いかもしれないが、どういうことだったのか？

会社側： いつもインターネットを介して中継をしていて、この日のセッティングは有線接続の環境が無く、無線接続だった。テストも行い、この時は大丈夫だった。

会社側： 3日間とも私がラジオでオンエアを確認していて、11日と13日の中継は問題が無かったと思う。2日目の12日に少しトラブルがあり、途中で切れて、また復活したという場面が、2回くらいあったと記憶している。無線接続で、人がたくさんいるような状況であったり、他に様々な環境によっても、接続が途切れたりすることがあるので気を付けてはいたが、12日は上手く出来なかった。さらに12日は電力トラブルもあって、音響設備のブレーカーが落ちてしまった。スタジオの無音検知が働いて、自動演奏に切り替わって音が出た。

田中委員： 「陣屋前夜市」は観光協会で執り行っているが、イベント会場に常設の電源は無く、電気屋に仮設電源を取り付けてもらうので、手配する時の電気容量の伝え方に問題があったのかもしれない。当日、ブレーカーが落ちて、電気も切れてしまうというハプニングが起きたが、その中でもヒッツFMの皆には、場を上手くまとめて頂き感謝している。

会社側： 本来、放送が途切れるということは、放送事故なので良くない。本当は有線接続で放送したいが、色々な事情もあり、無線接続でしか放送できないこともある。無線接続での音切れは改善したいと思っているが難しい。先ほども言ったが、テストの際は大丈夫だったが、本番途中で放送が途切れてしまった。

原委員： 私が聴いていたその時は「パカッ」と音が途切れて「あれ、切れたのかな。うちのラジオがおかしいのかな？」と思っていたら、数分後に、子どものインタビューが、話の途中から流れてきた。ハプニングは仕方が無いし、会場では多分、電源が落ちた時に、司会のナビゲーターが、コメントして対応したと思うが、ラジオの放送では、話の途中から「ブツッ」と入ると、聴いている側は「えっ、何？」ということになるので、やはりコメントが無かったのは、はっきり言って問題だと思う。会場内は良いが、ラジオで聴いているリスナーは「どうしたのかな？」と思うので、問題があった時点で一言説明するとか、その辺りは今後何とかして欲しい。

大萱委員長： 先程説明のあった電源の問題は分かったが、それについては容量を増やせば良い。それ以外で、電波を飛ばして接続するため、人が増えて携帯電話を皆が使い出すと電波障害を起こしてしまうのか、雷が遠くで鳴ると影響を受けてしまうのか、音切れのはっきりとした原因は特定できないのか？

会社側： 特定できない。

大萱委員長： 「春の高山祭のサテライト放送」（同じ会場）の時も無線接続なのか？

会社側： 「春のサテライト放送」の時は、同じくサテライト放送をするヒットネットTV（地元のケーブルテレビ局）の有線設備（仮設）を利用させてもらっている。それ以前は無線接続で放送していて、音が切れたこともあった。どのサテライト放送の時でも、費用を出せば有線設備も整えられると思うが…。

大萱委員長： いずれにせよ、設備面を直ぐに何とかするのは難しいと思う。やはりラジオは音が無くなると「何かあったのか？」ということになってしまうので、現場ではハプニングがあっても何とかするが、放送ではスタジオからのフォローも必要だと思う。人間的に無理なのかもしれないが、そのようなことができるだけ無いよう、考慮して欲しい。今回、放送事故の扱いにはならなかったのか？

会社側： 普段から20秒無音状態が続くと、自動で音楽が流れる設定になっていて、この時も流れた。

大萱委員長： 頻繁にこのような（音が切れる）問題が起きるわけではないが、楽しみに聴いている方もいるので、よろしくお願ひしたい。

会社側： 貴重なご意見等頂き、感謝している。スタッフに報告し、ますます向上できるように努めていきたいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

令和元年8月27日（火）

番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 令和元年10月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）